



地方独立行政法人 神戸市民病院機構 平成 22年度業務実績の概要

中央市民病院



西市民病院



資料2-1

1 市民に提供するサービスその他の業務の質の向上(医療の質の向上)

◇市民病院としての役割

- 《救急医療》
 - 中央市民病院は市全域の基幹病院として救命救急センターの役割を果たし、365日24時間体制の救急医療を継続
 - 西市民病院は市街地西部の中核病院として内科系・外科系での救急医療を毎日午前0時まで、金曜・土曜日は24時間体制で継続、救急医療のあり方等を院内委員会で議論し、23年度内に24時間救急の一部拡大方針を決定
- 《小児・周産期医療》
 - 両病院にて医療技術の向上に努めるとともに、地域医療機関と連携して、安定的な小児・周産期医療を提供
 - 中央市民病院はハイリスクな分娩へ対応し、西市民病院は小児科医の確保を図り診療体制を充実・強化
- 《感染症医療》
 - 神戸市新型インフルエンザ等対策病院連絡協議会に両病院より出席し、実施計画の改定に向けての検討に参画
 - 西市民病院においては、22年度より感染管理専従看護師を配置し、感染対策に速やかに対応できる体制を整備
- 《災害時における医療》
 - 東日本大震災における被災地支援として、災害拠点病院である中央市民病院では災害派遣医療チーム(DMAT)の出動及び災害対策基本法に基づき医師等を派遣し医療活動等を実施、西市民病院では市長からの要請を受け、医師等を積極的に派遣し、医療救護活動を実施

◇専門性の高い医療の充実

- 中央市民病院では頭頸部外科を設置し、頭頸部腫瘍患者等への治療を関係診療科と連携して実施、西市民病院では、総合内科を設置し総合診療体制の充実を図るとともに呼吸器外科を設置し呼吸器疾患患者の対応を充実
- 4疾病への対応として、がん、糖尿病治療を継続するとともに、中央市民病院においては脳卒中、急性心筋梗塞治療を積極的に実施

◇市民・患者サービスの向上

- 患者満足度調査等によるニーズ把握のもと、手術枠、診療枠を柔軟に見直すことによって、待ち時間・待ち日数対策を行った。中央市民病院においては手術開始時間の弾力的運用及びMRI検査について5月22日より、第2・4土曜日検査を開始した。西市民病院においては内科診察室の増設により、混雑緩和と待ち時間短縮を図った
- 7月より両病院のホームページをリニューアルし、内容の充実を図り、市民・患者への適切な情報提供に努めた

◇地域医療連携の推進

- 中央市民病院は地域医療支援病院として紹介・逆紹介のさらなる推進に努めるとともに、顔の見える連携を図るため、「連携登録医のつどい」を開催、西市民病院では将来的な地域医療支援病院に向けて地域医療機関への診療科長の積極的な訪問など一層の推進を図った
- 両病院において地域医療従事者向けのオープンカンファレンスを継続実施

◇安全管理・チーム医療の推進

- コンプライアンスの推進、医療安全対策、院内感染防止の徹底を図り、安全管理に徹した質の高い医療を提供
- 職種を超え専門職が一つになって総合的に医療を行う「チーム医療」を推進、西市民病院では、新たに呼吸管理チームを設置

◇医療の標準化・診療情報分析

- クリニカルパスの運用については、中央市民病院では新病院において導入する電子カルテ上での運用の準備及びDPCを踏まえたパスの見直しを進め、西市民病院においては、パスの見直しとともに種類数の増加に努めた結果、両病院の実績は、適用率が目標値を下回ったものの、種類数は目標を達成
- 両病院においてDPC分析ソフトを活用し、ベンチマーク比較等各種データを診療科に示すことで医療の質の標準化を推進

◇臨床研究・治験の推進

- 両病院において、治験及び臨床研究を積極的に推進

3 安定した経営基盤の確立(資金収支の均衡)

(単位:億円)

	21年度実績	22年度		前年度比 目標比
		目標	実績	
単年度資金収支	14.1	2.7	31.9	+17.8 +29.2

◇ 22年度は、DPCを踏まえた病床運用、手術室及び医療機器の効率的な運用、地域医療連携の強化などにより、新規入院患者や手術件数の増加、紹介・逆紹介率の向上等に表れ、診療報酬のプラス要素も加味し、目標を大きく上回る結果となった

2 業務運営の改善及び効率化

◇すべての職員がプロとして活躍し、やりがいがある病院

- 看護職員に対する資格取得等支援(看護大学編入学、大学院留学、長期留学、短期派遣の実施)
- 医療技術職員に対する支援(学術研究費、臨床研究助成の実施)
- 事務職員・技術職員に対する支援(新規採用職員研修の拡充、委託職員への研修会を開催)
- 優れた専門職の確保(任期付正規職員制度の創設、経験者採用の対象職種を全職種へ拡大)
- 職員満足度の向上(育児短時間勤務制度の継続、看護職員の2交代勤務試行実施の拡大、医療クラークの活用、両病院における警備体制の強化)

◇人材の成長を促進する人事給与制度と育成プログラムの充実

- 努力が評価され報われる人事給与制度(経験者採用の対象職種を全職種へ拡大、専門・認定看護師手当の継続、優秀職員表彰の継続)
- 研修制度の充実(新規採用職員研修の拡充、幹部職員マネジメント研修の実施、全職場内研修を開始、委託職員への研修会の開催)

◇教育病院として人材育成への貢献

- 教育病院としての指導力の向上(クリニカル・フェロー制度の創設、西市民病院は研修室の組織化)
- 看護大学等との連携(看護学生等の受入れ)

◇外部評価の活用・監査制度の充実

- 病院機能評価施設認定(両病院 平成21年更新認定、中央市民病院救急医療 平成22年2月認定)
- 監査制度の充実(監事監査、不適正経理処理に係る緊急内部調査及び自主監査・相互監査の実施)

◇環境にやさしい病院づくり

- 両病院において、事務部門の昼休み消灯活動を実施
- CO2排出量の削減への取り組み

4 中央市民病院の再整備・医療産業都市構想

◇中央市民病院の再整備

- 平成23年3月施設完成に向け、着実に工程を進行し、平成23年2月25日竣工、3月1日に建物の引き渡し
- 移転・開設本部を設置し、運営計画の具体化・詳細化を進めるとともに、安全面を最優先に、診療機能の効率的低減を図る診療機能低減化計画を策定

◇医療産業都市構想への寄与

- 中央市民病院において、先端医療センターと連携し、連携会議を継続開催するとともに、高度医療機器の共同利用や共同研究を実施



新中央市民病院



ハイブリッド手術室

数値目標の達成状況

【中央市民病院】

目標値達成

	21年度実績	22年度目標	22年度実績	前年度比 目標比
紹介率 ※ (%)	47.2	50以上	50.2	+3.0 +0.2
逆紹介率 ※ (%)	69.7	65以上	76.4	+6.7 +11.4
クリニカルパス数 (種類)	287	300	303	+16 +3
クリニカルパス適用率 (%)	59.4	60	57.5	△1.9 △2.5
経常収支比率 (%)	109.1	102.6	110.6	+1.5 +8.0
病床利用率 (%)	91.5	94.0	93.0	+1.5 △1.0
材料費比率 (%)	32.7	35.3	30.9	△1.8 △4.4
経費比率 (%)	18.1	19.0	16.3	△1.8 △2.7
給与費比率 (%)	49.3	49.2	45.2	△4.1 △4.0

※ 中央市民病院は地域医療支援病院要件算定式での「紹介率」「逆紹介率」を算出している

【西市民病院】

	21年度実績	22年度目標	22年度実績	前年度比 目標比
紹介率 ※ (%)	36.6	36以上	42.6	+6.0 +6.6
逆紹介率 ※ (%)	22.1	26以上	29.4	+7.3 +3.4
クリニカルパス数 (種類)	75	85	96	+21 +11
クリニカルパス適用率 (%)	22.0	35以上	25.7	+3.7 △9.3
経常収支比率 (%)	104.3	98.7	104.6	+0.3 +5.9
病床利用率 (%)	85.8	88.1	88.4	+2.6 +0.3
材料費比率 (%)	23.6	25.1	23.7	+0.1 △1.4
経費比率 (%)	19.4	21.0	18.2	△1.2 △2.8
給与費比率 (%)	53.6	57.1	52.9	△0.7 △4.2